



第13回 長崎大学病院 ICLSコース報告書



長崎大学病院は、救急医療教育の一環として、全研修医の日本救急医学会認定『ICLSアシスタントインストラクター』資格取得を目指しています！

平成28年11月26日(土)開催

共催：長崎シミュレーション教育研究会
長崎大学病院 外来・救急医療教育室
シミュレーションセンター
協力：日本光電九州株式会社

コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- BLS(一次救命処置)に習熟する
- AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- 心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- 除細動の適応を判断できる
- 電気ショックを安全かつ確実にこなうことができる
- 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

実施結果

受講生17名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。

また、スタッフ(コースディレクター2名、インストラクター5名、アシスタントインストラクター7名)計12名で指導を行い、3ブースを問題なく運営した。

また、スタッフは医師だけでなく、看護師、薬剤師、救命士、歯科医師とコメディカルからの参加も多かった。

※スタッフ詳細はP.4



<実施内容>

開催日時	平成28年11月26日(土) 9:20~17:00
受講者数	17名
対 象	初期研修医 15名、看護師 2名
場 所	長崎大学病院 シミュレーションセンター

<スケジュール>

		グループ(1)	グループ(2)	グループ(3)
09:00~09:20	0:20	受 付		
09:20~09:30	0:10	オリエンテーション		
09:30~10:20	0:50	BLS+AED	モニター	気道管理
10:20~10:30	0:10	休憩・移動		
10:30~11:20	0:50	気道管理	BLS+AED	モニター
11:20~11:30	0:10	休憩・移動		
11:30~12:20	0:50	モニター	気道管理	BLS+AED
12:20~13:10	0:50	昼 食		
13:10~13:15	0:05	BLS・ALSデモンストレーション		
13:15~14:25	1:10	チーム蘇生 VF/VT	チーム蘇生 VF/VT	チーム蘇生 VF/VT
14:25~14:35	0:10	休憩・移動		
14:35~15:20	0:45	non VF/VT	non VF/VT	non VF/VT
15:20~15:35	0:15	休 憩		
15:35~16:35	1:00	メガコード	メガコード	メガコード
16:35~16:45	0:10	移動		
16:45~17:00	0:15	終了式・修了証授与式		

<受講者>

		名前	年次	所属
グループA	1	---	2	医療教育開発センター
		---	1	医療教育開発センター
		---	1	医療教育開発センター
	2	---	1	医療教育開発センター
		---	1	医療教育開発センター
		---	1	医療教育開発センター

グループB	1	---	1	医療教育開発センター
		---	1	医療教育開発センター
		---	1	国際医療センター2
	2	---	1	医療教育開発センター
		---	1	医療教育開発センター
		---	1	長崎大学病院

グループC	1	---	2	医療教育開発センター
		---	1	医療教育開発センター
		---	1	医療教育開発センター
	2	---	1	医療教育開発センター
		---	1	国際医療センター2

計17名

<スタッフ>

役割	名前	所属
コースディレクター	山野 修平	救命救急センター
サブディレクター	石本 裕士	第2内科
インストラクター	柴田 英貴	消化器内科
インストラクター	立石 洋平	脳神経内科
インストラクター	田下 博	看護部(シミュレーションセンター)
インストラクター	澤山 靖	血液内科
インストラクター	小森 悠二	看護部(5階西)
アシスタントインストラクター	高山 隼人	地域医療支援センター
アシスタントインストラクター	横山 誠	看護部(国際医療センター2)
アシスタントインストラクター	赤松 隼人	薬剤部
アシスタントインストラクター	百木 真吾	長崎市北消防署 琴海出張所
アシスタントインストラクター	杉内 晴貴	長崎市中央消防署
アシスタントインストラクター	山下 恭徳	歯科 特殊歯科総合治療部
アシスタントインストラクター	原 敦子	第2内科
事務	花井 寿々子	地域医療支援センター兼シミュレーションセンター

○午前○

計15名

BLS: ①澤山先生、高山先生 ②田下看護師、杉内救命士

気道管理: ①柴田先生、横山看護師 ②小森看護師、原先生

モニター・除細動: 立石先生、赤松先生、百木救命士、山下先生

○午後○

① 柴田先生、横山看護師、百木救命士、山下先生

② 立石先生、小森看護師、高山先生、杉内救命士

③ 田下看護師、澤山先生、赤松先生、原先生

◆アンケート◆ 受講者の声

- ・苦手意識が変わった。自信ができました。
- ・対応のパターンをつかむことが出来たので、後は実践的に動けるかどうかという段階まで来ることができた。
- ・あらかじめ場面を想定して、訓練を行う事で、受ける前より今後、素早く動けるようになるかと思いました。
- ・薬の順番・間隔など適切なタイミングと量が知れて、実践したいと思う。
- ・主体的に考える立場になることがなかったので、鑑別等すぐに出てこないといけないと感じた。
- ・焦ってしまう事が多かったため、実際の場面に出会った時に落ち着いて行動できるようシミュレーションを重ねる。
- ・受けた後は、少しできるようになったかなと思いつつも、まだ不十分なところがあり、日ごろの勉強を続けて行くことが大切だと実感しました。
- ・自信が持てるようになりました。
- ・一連の流れを把握できた。
- ・BLSをやるのに精一杯な状態でしたが、自信ができました。
- ・以前は自分のやっている事だけで精一杯でしたが、受講後は、全体の流れにも配慮できるようになったと思います。
- ・ハリーコールで現場に行っても何をすればいいのかわからず、見ていることが多かったが、一連の流れが分かるようになった。
- ・心停止の原因が何かアセスメントする意識がついた。
- ・自分の動きが、はっきりした。
- ・急変時はもちろん、急変時じゃなくても、周囲の観察や周囲のスタッフとのコミュニケーションの大切さに気付いたし、今後出来ると思います。

◆アンケート◆ スタッフの声

1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- ・全体的に見て良かったと思います。少し元気がない？
- ・態度は全体的によかった。意欲は個人差を感じた。
- ・意欲は高かった
- ・4H4Tなど事前に理解している受講生としていない受講生がいた。
- ・問題なし。質問も出来ていた。
- ・みなさん積極的に参加されていて良かったです。

2) 予備知識(予習含む)はどうだったか？

- ・個人差はあったように見えた。
- ・予習はしてきていないようだったが、特に問題はなかった。
- ・診療科の経験で、少し差があったような気がします。
- ・されていると思いました。
- ・個人差はありましたが、実習を繰り返しやるうちに知識もついてきたように思います。
- ・BLSの知識のところで、忘れていた受講生がいました。

3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- ・Secondary ABCDを教えて頂きました。また、効果的な指導も有難かったです。
- ・様々な分野、科の先生、スタッフがいて補い合えたし、質問も出来て良かった。
- ・各々の専門知識でカバーしていた。
- ・みなさん、説明がうまく、人を引き付ける話術があると感じました。
- ・みなさん知識も充分あり、インストラクションも素晴らしく、勉強させて頂きました。
- ・アシスタントインストラクターにインストラクション(成人教育)について初めに学んでもらった方がいいかもしいないと思いました。
- ・とても熱心でブース運営はやりやすかった。
- ・積極的で良かったです。
- ・インストラクターにもモニターをして頂き、前向きに取り組んで頂きました。
- ・みなさん、頑張っていて運営されているといつも感じています。
- ・みなさん知識も充分あり、インストラクションも素晴らしく、勉強させて頂きました。

4) 今後について、ひとこと

- ・とにかく継続して欲しい。
- ・研修医主体のコースだと仕方ないですが、少し緊張感がなくなりがちと思いました。
- ・定期的に参加したいと思います。よろしくお願いします。
- ・ワークショップに参加してインストラクターを目指します。
- ・引き続き、インストの方々のインストラクションを見させて頂き、勉強していきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。
- ・今後も参加させて頂きたいと思います。

●改善点●

- ・モニター、除細動のブースが今回人数が6名と多かったので、気道管理のように2体あれば良いと思いました。

準備する資機材(3ブース)

資機材名	必要数	備考
ハートシム、操作用PC	3	
レサシアン	2	
バックバルブマスク	3	
AED	2	フィリップス
気道管理トレーナー	2	
モニター付き除細動器	3	単相性 1 二相性 2
気道管理ボックス	3	各ブースに1箱ずつ
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡(4.0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニュラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	3	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	3	各ブースに1つずつ
ワゴン	2	
聴診器	3	持ってきてもらう
アルコール綿	多目	
ホワイトボード	3	
ホワイトボードマーカー4色	12	
ストップウォッチ	4	
メトロノーム	2	
延長コード	4	



長崎大学病院
外来・救急医療教育室
地域医療支援センター
シミュレーションセンター
 〒852-8501
 長崎市坂本1丁目7番1号
 電話 (095) 819-7346
 FAX (095) 819-7379